

小笠原諸島振興開発計画に対する都民意見の募集結果について

東京都では、約1か月間にわたり「小笠原諸島振興開発計画（素案）」に関する都民の皆様のご意見を募集しました。

以下に、お寄せいただいた主なご意見の概要と、それに対する都の考え方を公表いたします。

貴重なご意見をお寄せいただき、誠にありがとうございました。

1 意見の募集期間

平成26年9月12日（金）から10月14日（火）まで

2 意見の提出者及び意見数

意見提出者数：5件、意見数：延べ25件

3 主な意見と都の考え方

○第4章 2 道路、港湾等の交通施設及び通信施設の整備、人の往来並びに物資の流通及び廃棄物の運搬に要する費用の低廉化その他の交通通信の確保

（3）道路・島内交通

ご意見の概要	○道路の開発に当たって、島民の自然環境の価値観は考慮する予定はあるか。
都の考え方	○計画において、自然環境への影響が大きいと予測される事業については、地元の環境団体をはじめ専門家の意見を踏まえ、適切な対策・調査を実施することとしております。また、道路の開発に当たっては、住民説明会を実施しております。

○第4章 2 道路、港湾等の交通施設及び通信施設の整備、人の往来並びに物資の流通及び廃棄物の運搬に要する費用の低廉化その他の交通通信の確保

（5）人の往来等に要する費用の低廉化

ご意見の概要	○おがさわら丸・ははじま丸に乗船するごとに割引率が上がると再訪しやすいと思う。
都の考え方	○計画において、定期航路の旅客運賃について、運行事業者等への支援策の導入について関係機関と調整することとしております。運賃等の低廉化の検討等に際し、いただいたご意見を参考とさせていただきます。

○第4章 3 地域の特性に即した農林水産業、商工業等の産業の振興開発

（1）農業

ご意見の概要	○農水産業の質の向上のために、海洋深層水の利用を盛り込むべきである。 ○土地の利用面積表の数字に比べ、農地の利用が少ない。
都の考え方	○現時点では海洋深層水の利用の予定はありませんが、いただい

	<p>たご意見につきましては、今後の参考とさせていただきます。</p> <p>○計画において、農地の確保を推進するため農地の流動化や遊休農地の活用を図るとともに、担い手の確保のため新規就農者に対する自立支援等を行うこととしています。</p>
--	--

○第4章 3 地域の特性に即した農林水産業、商工業等の産業の振興開発
(3) 商工業

ご意見の概要	○小笠原の農水産業の製品がほとんど観光客と本土へ輸送されているため、島民自身が購入できないといわれているが、農水産業の強化で小笠原島民の要求はどのように考慮されているのか。
都の考え方	○都としても、農産物や水産物の地産・地消は重要であると考えております。計画において、農水産業と商工業との連携を強化し、地元の農産物や水産物を活用した加工品の開発や島内流通の円滑化を進め、定着・普及を図ることとしております。

○第4章 3 地域の特性に即した農林水産業、商工業等の産業の振興開発
(5) 他産業との連携

ご意見の概要	○亜熱帯農業センターの活用方法について、小笠原固有植物をさらにたくさん植えてほしい。天然記念物のオガサワラオオコウモリの餌となる木をもっとたくさん植えてほしい。グリーンペペを増殖し、センター内で観察できるようにしてほしい。
都の考え方	○いただいたご意見につきましては、亜熱帯農業センターの活用にあたり、今後の参考とさせていただきます。

○第4章 5 住宅及び生活環境の整備 (1) 住宅

ご意見の概要	<p>○定住者が増加しない原因の一つとして、住宅不足がある。農業を希望する若者の悩みは「農地」と「住宅」である。人口増加を目標にするなら、バリアフリー住宅やファミリー住宅など多様な住宅供給が必要である。</p> <p>○南海トラフ地震については、津波予想だけだったが、小笠原もプレートの境界上である。大地震の可能性もあり、古い住宅の改築を急がれるようお願いしたい。</p>
都の考え方	<p>○都としても、定住の促進に向けては、住宅の整備が重要であると考えております。計画において、住宅政策に当たっては、高齢者の生活に配慮した構造や居住環境の向上や自然環境に配慮した住まいづくりを目指すこととしております。</p> <p>○都としても、老朽化した小笠原住宅の建替えについては早急な対応が必要であると考えております。計画において、小笠原住宅の建替えを計画的に推進することとしております。</p>

○第4章 5 住宅及び生活環境の整備 (2) 簡易水道

ご意見の概要	○海水淡水化プラントの導入を検討してほしい。
都の考え方	○小笠原村では、渇水対策として、平成23年7月に海水淡水化装置を導入しております。

○第4章 10 再生可能エネルギー源の利用その他のエネルギーの供給

<p>ご意見の概要</p>	<p>○「環境負荷0の土地」を父島・母島の主なテーマにするとよい。例えば、島のエネルギーを水力や太陽光・風力などでまかなう、廃棄物を分別し土地に負荷をかけない、など。観光で誘致するより、人間生活が自然に悪影響を及ぼさない土地としてシンボル化されたほうが、興味を持たれ、結果訪問したくなる人が増えると思う。エネルギーを自然の負荷を与えないで暮らしをすることの実現ができれば、島の人の誇りにもなるし、都民としても誇れる。</p> <p>○海洋温度差発電や地中熱・空気熱を熱源としたヒートポンプを活用してほしい。</p> <p>○エネルギーマネジメントシステムやスマートグリッドを盛り込んでほしい。</p>
<p>都の考え方</p>	<p>○現在も小笠原村において太陽光発電設備を導入しており、計画において更なる導入拡大に向け取り組むこととしております。また、廃棄物については、計画において、資源化中継施設を整備し、住民の意識啓発を努めながら、ごみの一層の減量化、分別収集及びリサイクルの徹底を推進することとしております。</p> <p>○小笠原村においては、海洋温度差発電など海洋エネルギーはポテンシャルが大きいと考え、技術開発の動向や他地域での実証事業の成果を見ながら、長期的に導入可能性の検討をしております。また、地中熱ヒートポンプについては、現時点では導入予定はありませんが、今後、検討する際、参考とさせていただきます。</p> <p>都としても、地域特性に応じた再生可能エネルギー導入を支援してまいります。</p> <p>○小笠原村においては、エネルギーマネジメントシステムの導入可能性については導入コストなどの課題はあるものの、将来的に導入可能性がある技術であると考えております。</p>

○第4章 13 観光の開発（1）観光資源の開発と観光振興

<p>ご意見の概要</p>	<p>○小笠原に行きたくなる人というのは、「端っこに行ってみたい」「日本の中で交通時間がかかるところにあえて行ってみたい」といった気持ちを持つ人たちではないか。「日本の端っこの島」で連盟を組んでPRしたり、「到達までに時間がかかるところ連盟」というのも面白い。こうすれば関東以外の地域の人にも伝わると思う。</p> <p>○雨天時対策の観光メニューとして、鎖国の江戸時代に小笠原に流れ着いた漁民が何組かある。そこから切り取る江戸時代の幕府のあり方、漁業のやり方、海外の当時の状況、和船・洋船の仕組、難破ものの小説などユニークで興味深い切り口の博物館ができると思う。また、星や生物の生態などにも重点を置いてほしい。</p>
<p>都の考え方</p>	<p>○都としても、新たな視点の観光振興や観光メニューの充実は重要だと考えており、今後小笠原村の意向を踏まえ観光振興等を図る上での貴重なご意見として、参考とさせていただきます。</p>

○全体・その他

ご意見の概要	○住居や保育園などの建物を立て直すなら、統一したテーマ・デザインにしてはどうか。形が揃うと美しく、住んでいる人も心穏やかになり、故郷を今以上に誇れるようになるだろう。統一デザインは、小笠原の住環境の問題を解決する機能美であるべきだと思う。シロアリや塩害、台風など小笠原の暮らしの問題を解決する機能を持ちつつも、これまでにない新しい美の形であってほしい。統一デザインが決まったら、民家や宿泊施設にも公的補助を増やすなど島全体の足並みを揃えたい。
都の考え方	○都としても、小笠原の定住環境の整備は重要な施策であると考えております。いただいたご意見につきましては、今後の事業実施に当たっての参考とさせていただきます。なお、建設に当たっては、「東京都景観計画」、「小笠原（父島・母島）における景観に配慮した公共施設整備指針」、「小笠原まちなみ景観ガイドライン」等に基づき、整備することとしております。

この他にも、様々な見地からご意見をお寄せいただきました。いただいたご意見の内容は、都や小笠原村において情報を共有し、今後の振興開発を進めるうえでの参考とさせていただきます。